



RACE REPORT

全日本ロードレース第8戦 鈴鹿 43rd MFJ GP

最終戦は8位、ランキング7位でシーズンを終える

■コース全長:5,821m ■総客数:21,000人

10/29(土)予選 2011年を締めくくる最終戦！ライダー達の熱い戦いが開幕



9月下旬に負傷した左足のくるぶしの亀裂骨折は完治していないものの、怪我の状態はかなり回復した野左根選手。ついに最終戦となり、緊張感をもってレースウィークを迎えた。
予選の天気は快晴、路面はドライとベストコンディションで挑める状態だった。前日の公式練習でマシンのセッティングがほぼ決まり、残すはタイヤを選択するのみ。予選中にタイヤ交換をタイムを測ったところ、1秒近いタイム差がある事がわかり、タイヤサイズも決定した。
予選では、ベストタイム2分15秒730をマーク。当初予定していたタイムには結果届かず、ライダーにも苦戦の色が見えた。結果として予選順位は12位で終了し、最終戦は苦いスタートを切る事となった。

Pos.	No.	Machine	Rider	Team	Time
1	634	CBR600RR	中上 貴晶	MuSASHi RT ハルク・プロ	R 2'11.720
12	31	YZF-R6	野左根 航汰	ウェビックチームノリックヤマハ	2'15.730

10/30(日)決勝 4列目グリッドから追いつけるが、ウェットコンディションに苦戦をしいられる

決勝の朝、外はどんよりとした曇り空。何とかレースが終わるまで雨は降らないで欲しい...そう願いながらウォーミングアップランを迎えた。タイムは2分16秒249をマーク。マシンにも、最後の微調整を行った。
しかし、シリーズ最終戦を見にこられたファンの方の熱気も最高潮に達したJSB1000クラスの決勝直前、無情にも雨粒が落ち始めた。降り出した雨はやむ気配がなく、J-GP2クラスの決勝時にも路面はウェットのままだった。野左根選手は、タイヤをレインに履き替えて決勝に臨むこととなった。
決勝では、コースコンディションのせいか、転倒してしまうライダーが続出した。野左根選手も、決勝中にスリップしオーバーランしてしまう場面が見られた。そんな路面状況の中、果敢にアタックを繰り返すもタイムが伸びず、最終的に8位でチェッカーを受けた。
決勝後、野左根選手は苦しい戦いであった事が見て取れる表情を浮かべていた。



RESULT

決勝レース公式結果

Pos.	No.	Rider	Team	Laps
1	634	中上 貴晶	MuSASHi RT ハルク・プロ	11
2	2	山口 辰也	TOHO Racing	11
3	99	野田 弘樹	テルル・ハニービーレーシング	11
4	51	高橋 英倫	松戸フラッシュ&PLUS ONE	11
5	77	稲垣 誠	伊藤レーシングGMDアケノS	11
8	31	野左根航汰	ウェビックチームノリックヤマハ	11

ポイントランキング

Pos.	No.	Rider	Pts.	TRM	TRM	SUGO	AP	OIC	SC
1	634	中上 貴晶	128	25	25	25	25	20	28
2	15	関口 太郎	118	22	22	22	22	20	10
3	3	生形 秀之	100	18	18	18	13	18	15
4	2	山口 辰也	99	12		20	20	22	25
5	51	高橋 英倫	96	15	13	13	18	16	21
7	31	野左根 航汰	89	14	15	15	15	14	16

野左根選手コメント



決勝は、路面状況がウェットとなりコンディションの非常に悪いレースでした。あまり経験のないウェットな路面は非常に滑りやすく、スリップした時に一度コースアウトしてしまいヒヤリとする場面もある程でした。最終戦である鈴鹿で苦しい結果となってしまい、今年は厳しい戦いであったという事を痛感しています。

ですが、来年はチャンピオンを目指して頑張りますので、皆様、応援の程よろしくお願いたします！

(Webike TeamNorick YAMAHA 野左根 航汰)

阿部監督より「レースを終えて」

レースの1週間前に行った鈴鹿西コースのテスト走行では、調子は良好でした。岡山で負傷してしまった足も、ほぼ完治し、エリア選手権の記録タイムより1秒くらい速いタイムを刻むことができました。

しかし、レースウィークの公式練習では思っていたほどタイムが伸びず、2分15秒6止まりでした。セッティングには、たいして問題となる面が見つかりませんでした。ややエンジンブレーキがききすぎている感がありましたので、それを調整して、予選を迎えることにしました。

予選では、またもやタイムを伸ばすことができません。途中、タイヤを交換しても良いタイムが出ず、結局、走行時間の半ばで出した2分15秒7がベストタイムでした。欲求不満を残したままの一日となりました。

決勝日の朝、フリー走行ではそこそこだったのですが、急な雨が降り出してしまいました。5分間のフリー走行枠が追加で取られたのですが、雨の中では山口辰也選手が速さを見せていました。コンディションの変化を味方につけ、どんでん返しレースができるのではと思いましたが、レインでの走行タイムは2分29秒台で終わってしまいました。レース中には、スプーンにオイルがあったようですが、ラインを変えるなどして乗り方を工夫していたライダーが速かったです。航汰は、コースアウトしてしまってから、うまく乗れずこの結果となってしまいました。

今回のレースの結果には、航汰本人も、大変落ち込んでいます。もちろん、そうではなくては困りますが...。しかし、航汰は、10月29日にまだ16歳の誕生日を迎えたばかりです。心機一転し、精神的な強さを引き出せるよう、さっそく11月もサーキットトレーニングやダートレース、12月もモーターレースを予定しています。

FOR THE NEXT SEASON...

1年間、暖かい声援をお送りいただき、ありがとうございました!



今年は、期待していたほどの成果を残すことが出来ませんでした。年が若く、経験が浅いこともあります、精神的にもまだまだ強さが必要です。

「バイクを使う技術力」を磨くこともさることながら、「フィジカル的な強さ」や「メンタル面での強さ」も大切です。シーズンオフは、来期、見違えるような姿を見せられるように、ハードなトレーニングスケジュールを立てるつもりです。

航汰は、小さい頃からとてもライディングセンスがあります。しかし、これまでのライディングスタイルを変えていかなければ、壁を乗り越えていけません。マシンに乗せられているような今のスタイルから、マシンをもっと操れるようにならなければなりません。そのためには、技術はもちろんですが、「チャレンジする」精神的な強さが必要です。そのために、オフロードやダートトラックなどで、心を強くするためのトレーニングを重ねたいと思います。

本人の自覚とチャレンジ精神があれば、航汰は一気に変わると思います。「GPIに絶対に行きたい!」という最初の強い気持ちをもって、甘えをみせず、しっかりとした自覚を促したいと思います。どうぞ、これからも応援よろしくをお願いします。

(Webike Team Norick YAMAHA 阿部 光雄)



TOPICS

2011年最後の全日本ロードレース選手権シリーズに参戦してきました。舞台は例年と同じく、三重県の鈴鹿サーキットです。もちろん、Team Norickにとっても最終戦となりましたので、チーム全員の心の中は一層緊張していました。

しかし、そこは1年間一緒に過ごした仲間同士、ガチガチに固まった緊張ではなく、終始ほどよい緊張感を保って臨むことができたウィークだったと思いました。

雨天の決勝レースは、11番グリッドからのスタートで8位フィニッシュ。チームノリックの年間を通してのポイントランキング

は7位となりました。指や脚の負傷など、怪我にも苦しまされた航汰選手の2011年全日本ロードレース。私個人が1人のライダーとしてコメントするならば、「125cc→600ccに変更して乗った初年度でこの成績は凄い!」と素直に思います。

『世界へ』という高い目標を直近におくチームとしては、「2011年が無事に終わった」と両手を挙げて喜んでいる場合ではなく、新たに見えた課題への厳しい挑戦の始まりでもあります。また来シーズンも応援よろしくをお願いします! (Webike Staff 一同)



» 公式サイト情報

● Webike Team Norick
YAMAHA
<http://norick.webike.net/>

● 野左根 航汰選手 プロ
フィール
[http://norick.webike.net/
/nozane-kohta/](http://norick.webike.net/nozane-kohta/)

● 参戦マシン紹介
[http://norick.webike.net/
/machine/](http://norick.webike.net/machine/)

● 2011年レーススケジュール
[http://norick.webike.net/race-
schedule/](http://norick.webike.net/race-schedule/)